

**令和４年度第１回 社会教育委員会議
議 事 要 旨**

１．開催日時：令和４年７月１２日（火） １４：００～１５：３０

開催場所：八尾市立青少年センター３階 集会室

出席委員：今岡委員・二宮委員・田中委員・村尾委員・角田委員・大槻委員
畑委員・中道委員・赤松委員・山根委員（順不同）

２．議事案件

- １ 議長・副議長選出について
- ２ 令和３年度第４回社会教育委員会議録の承認について
- ３ 令和４年度事務事業概要について
- ４ 報告事項について
 - 【生涯学習課】
 - ①「くらしの祭典２０２２」の開催について
 - ②「第２７回八尾市こども会親善つな引き大会」の開催について
 - ③青少年センター講座の実施について
 - 【八尾図書館】
 - ④八尾市立図書館の利用状況等について
 - ⑤令和４年７月～９月八尾市立図書館行事予定一覧
 - ⑥今東光資料館企画展示の実施について
 - 【観光・文化財課】
 - ⑦八尾市の文化財施設のイベント等について
- ５ その他
 - ・近畿地区社会教育研究大会[奈良大会]について

３．意見交換の概要（○：委員、●：事務局）

- １ 議長・副議長選出について
議長として田中委員を、副議長として中道委員をそれぞれ選出した。
- ２ 令和３年度第４回社会教育委員会議録の承認について
※全委員異議なし
- ３ 令和４年度事務事業概要について
 - こども施策については、事業が複数課に重なる部分もあると思うが、庁内での縦割りを解消し、常に連携をもっていただきたい。
 - こどもに関係する課題については多岐に及び、各々の部局が業務を遂行しているが、よりよく対応できるよう関係課で協力しながら進めてまいりたい。
 - 近年こどもの虐待のニュースを聞き、心を痛めているが、地域でもっと見守っていかなければならない。地域からも通報を受ける仕組みがあるとよい。

●今年の10月に生涯学習センター内に「こども総合支援センター」を開設し、こどもに関する総合的な支援窓口を整備する予定である。大阪府や警察にも窓口はあるが、そこでも児童虐待の通報も受け入れる形となっている。

○自治会加入する人や子ども会に加入する人が減少しているが、そのような方でも地域に参加することで地域力が高まると考える。

●子ども会の加入率が減少しているのが現状であるが、単位子ども会枠組みを超えた地域合同での取り組みを促すなど活動しやすくなるよう工夫してまいりたい。ジュニアリーダー養成講座など地域でのこどものリーダーを養成するような事業も行っている。

○この2年間コロナの関係で子ども会活動ができなかった影響もあり、子ども会加入率が減少しているうえ、退会、休止する子ども会も出てきている。

保護者の働き方が変わってきている現実を踏まえて、青少年指導員も柔軟に活動していく必要を感じている。

○図書館や青少年会館で新たな行事を予定しているのか、また不登校児の居場所づくりとしてサポート体制はどうなっているか。

●4年度については、おはなし会などは既に再開しているが、距離を保つため、大型絵本を活用するなど工夫して実施している。大人向けの映画会も実施したが、参加人数を制限したり、休憩をはさんだり感染防止対策を講じて実施した。

●不登校児童の居場所づくりについては、桂青少年会館で昨年夏より学校や教育センターと連携しながら試行的に実施している。サポート体制としては、大学生によるサポーターや教育センター職員が相談相手になり、勉強の支援を行っている。

○こどもが抱える問題は多種多様であるが、ヤングケアラーに対する支援も行っているか。

●ヤングケアラーに関しても、今後開設を予定している「子ども総合支援センター」が中心となり、福祉部分とも連携しながらすすめていくこととなる。

○ヤングケアラーについては、こども総合支援課職員が各学校を訪問しており、学校も連携しながら支援していきたい。

○こども会活動の減少については、共働き世代に向けた子育て支援のあり方から検討すべきである。放課後児童室を利用する家庭のニーズとして表れている。土日に保護者から引き継いで支援できる仕組みづくりや地域の若者の活用が求められる。

また、こどもたちの悩みにどう対応できるかについて、学校と社会教育側の受け皿をもっと増やすかを考えるべきである。例えば、神奈川県鎌倉市では、学校に行けない子供に対し、図書館を居場所としてアナウンスしていた。学校とは別に様々な価値観をもつ大人に出会い、色々な考え方に触れることはこどもの助けとなる。

●学生の活用について、ジュニアリーダーやリーダースクール活動において、大学

生ボランティアを活用している。また、この活動については青少年健全育成協議会がボランティアで下支えもしている。

○各小学校区に福祉委員会があるが、福祉委員会の活動によりこどもや大人も含めた地域の課題を解決するケースもある。

○長年地域の青少年指導員をしており、こども会活動に携わってきた。居住する地域でも一時子ども会の会員が3世帯4人になった時期もあったが、朝のラジオ体操をきっかけにし、こども会の役員の奮闘もあり、現在40名が参加するまで復活するに至った。子ども会の加入が町会への加入に繋がっているケースもある。子ども会の役員の負担軽減のために、青少年指導員としてサポートしている。集団でしか学べないので、今後も貴重な場となる環境づくりに努めていきたい。

○八尾の歴史遺産である由義寺を市民にもっと広めてほしい。

●平成29年に由義寺が発見されて以降、跡地については現在も発掘調査を続けている。事務事業概要で説明したとおり、史跡全体の整備計画を策定しており、その中で市民により周知できる方法を探っていきたい。

4 報告事項について

○「くらしの祭典2022」について、今回のイベントについては、コロナ感染症拡大防止の観点から入場者数を300人に限定している点及び八尾の魅力大使である河内家菊水丸による河内音頭講演、新聞詠みを予定している点を補足させていただく。

5 その他

・近畿地区社会教育研究大会[奈良大会]について、事前に参加意向を確認した結果、委員3名の参加を決定した。参加委員には、後日当日の予定等について連絡する旨説明した。